ほぼ週刊コラム　Partnership論　その１９６

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』**

**第二十五回勉強会（通年内容は**[**年表rev.9**](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Papers/evolution%20history/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev9.ppt)**参照方）の準備**

**state sovereigntyとpopular sovereigntyとで、どっちがどっちをoverruleするのか**

20160708 rev.1 齋藤旬

**もう少し先だが、第四次産業革命の 3.4 Society（47%, 90page/184page）には**：

“The fourth industrial revolution, which tests so many of our fundamental assumptions, may exacerbate the tensions which exist between deeply religious societies defending their fundamental values and those whose beliefs are shaped by a more secular worldview.”

「第四次産業革命は、私達の原理的前提の多くに再考を迫る。従って、今でも緊張関係にある二者間の関係は更に悪化するかもしれない。即ち、原理的価値を守る極めて宗教的社会と、より世俗的な世界観によってbeliefs（思想、信念、信仰）を形成した人々との間にある緊張は、更に悪化するかもしれない。」

　･･･という記述が出てくる。

**これは突き詰めれば、表題にした「state sovereignty（国家主権）とpopular sovereignty（人々主権）とで、どっちがどっちをoverruleするのか」という問題に帰着する**。

　今週は、この「which overrules which」問題に関して少し考察する。

**ずばり「時と場合による」、英語で言うなら「Well, that depends…」が私の答え**。あるいはオバマケアの用語で言うなら「economic substance（本来の意味での経済的実体）があるならば、popular sovereigntyがstate sovereigntyをoverruleする」し、Ronald Dworkinの用語で言うなら「religion (with / without God)であると判断できるprior commitment（前提与件）があるならば、popular sovereigntyがstate sovereigntyをoverruleする」が答え。即ち「通常は、state sovereigntyがpopular sovereigntyをoverruleする」ということになる。

**この背景には「いずれにしろ極端は良くない」という考えがある**。即ち極端に合理的であっても、またその反対に、極端に宗教的であっても良くない。どちらの方向であっても極端に行きすぎれば、おそらく争いや戦争が起きる。宗教原理主義は良くないが合理原理主義も良くない。

　えっ？と思った読者もいるかもしれない。宗教は現世世界よりもあの世を大事にするのだから現世世界を破壊しようとするかもしれないが、合理性（rationality）は現世世界を大事にするのだからこれを破壊しようとしないのでは、と思ったかもしれない。

　いや、そうはならないのは歴史が証明している。勿論、宗教に起因する戦争も多いが、支配できる領土や領民という現世的欲求というか合理的原因から起きる戦争も多い。20世紀の戦争のほとんどは後者の種類だったのではないか。

結局、ほどほどに宗教的で、ほどほどに合理的な人々、というか社会が良いのだろう。バランスが大事ということ。

**innovationやventureについても少し似たことが言える**。宗教的であればdisruption（破壊）を起こしやすいかもしれないが、disruptしただけでrebuild（再構築）に至らないかもしれない。無謀にventureする（危険を冒す）だけで現世的成果は無しとなりかねない。

　かといって合理的であればinnovationやventureが進むかというとそうでもない。incremental innovation（漸進的innovation）ならば起きるかもしれないが、disruptive innovationは起きない。disruptionだけ起きて成果を伴うinnovationにはつながらないだろう。勿論、venture（危険を冒す）なんて非合理なことはしない。

　結局この観点でも、ほどほどに宗教的で、ほどほどに合理的な人々というか社会が良いのだろう。グラフに描くなら、X軸の右端を100%宗教的、左端を100%合理的とし、Y軸にinnovative capacityをとれば、X軸の中程にinnovative capacity最大が現れるだろう。

　ここでY成分として「平和」をプロットすると、やはりX軸の中程、ほどほどに宗教的でほどほどに合理的な辺りに、最も「平和」な点が出現するはずだ。

**IR4（第四次産業革命）の和訳作業ファイルrev11を**[作業ファイル](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Papers/IR4/The%20Fourth%20Industrial%20Revolution%20by%20Klaus%20Schwab%20revX.docx)**に**アップしておいた。

**3.2.4 New Operating Models　新たな経営models 49**

Combining the digital, physical and biological worlds 52-58

を和訳した。

**今週のpunch lineも先週に続いて、私の関心事、partnershipについてだ。**

「私の感覚でいうと、hierarchical structuresからmore networked and collaborative modelsにshiftしていく組織だけが成功するだろう。被雇用者と管理者が共に、熟達、自立、意義（mastery, independence and meaning）を求めて協業しようとする前進力によって、外からでなく内から動機付けが進む様になる。これが示唆するのは、分権型teamsと遠隔地workersによるdynamic collectivesによって事業組織が形成されるのが主流となること。即ち、取り組んでいるthings or tasksについてdata and insightsを、皆で常にやりとりすることが重要となる。」

来週は実働2日/週5日、再来週は夏休みなので、次号は7月25日の週に発行する予定。

　　　　　　　　　　　　　　今週は以上。来来来週も請うご期待。